

研究発表会開催通知

(平成2年5月15日～6月30日)

研 究 会	日 時		会 場	備 考
情 報 シ ス テ ム	5月15日(火)	10:00～17:00	工 学 院 大	前号参照
デ ー タ ベ ー ス ・ シ ス テ ム	5月17日(木)	10:30～17:00	電 総 研	同 上
ア ル ゴ リ ズ ム	5月17日(木)	13:00～16:00	農 工 大	同 上
コ ン ピ ュ ー タ ビ ジ ョ ン	5月17日(木)	13:00～17:00	名 大	同 上
コ ン ピ ュ ー タ と 教 育	5月17日(木)	13:00～17:00	機械振興会館	同 上
自 然 言 語 処 理	5月18日(金)	10:00～15:45	N T T	同 上
グ ラ フ ィ ク ス と C A D	5月18日(金)	13:00～16:30	機械振興会館	同 上
設 計 自 動 化	5月22日(火)	10:00～16:30	同 上	同 上
マ イ ク ロ コ ン ピ ュ ー タ と ワ ー ク ス テ ー シ ョ ン	5月23日(水)	13:30～17:00	同 上	同 上
ソ フ ト ウ ェ ア 基 礎 論	5月24日(木)	10:00～17:00	名 大	同 上
マルチメディア通信と分散処理	5月24日(木) 5月25日(金)	9:30～17:00 9:30～17:00	鹿 児 島 大	同 上
情 報 学 基 礎	5月28日(月)	9:45～17:00	機械振興会館	同 上
ソ フ ト ウ ェ ア 工 学	5月29日(火)	13:00～17:00	同 上	同 上
記 号 処 理	6月4日(月)	13:00～17:00	津 田 塾 大	下記参照
オペレーティング・システム	6月8日(金)	13:00～17:00	機械振興会館	同 上
プ ロ グ ラ ミ ン グ 言 語	6月8日(金)	13:10～17:00	同 上	同 上
マ イ ク ロ コ ン ピ ュ ー タ と ワ ー ク ス テ ー シ ョ ン	6月22日(金)	13:20～17:00	同 上	同 上

◆ 第57回 記号処理研究会

(発表件数：4件)

(主査：竹内郁雄，幹事：相場 亮，小谷善行，多田好克)

日 時 平成2年6月4日(月) 13:00～17:00

会 場 津田塾大学 AV センター 5206 教室

(小平市津田町 2-1-1, JR (中央線)：国分寺下車，西武国分寺線：鷹の台下車，徒歩5分，または西武バス(小川上宿行)：津田塾大学前下車，Tel. 0423 (42) 5160)

議 題

(1) Prolog による将棋プログラムのデータ構造 飯田弘之，瀬野訓啓，吉田英俊，小谷善行(農工大)

〔概要〕 Prolog プログラムでの将棋の局面や着手に関する様々なデータ構造の効率について議論する。

(2) 計算資源指向型並列分散処理システム —Lilac— 安田弘幸，榎本隆昭，前川博俊(ソニー)

〔概要〕 計算における資源や機能に基づいたアーキテクチャを持ち高度な分散処理を実現できる並列計算システム。

- (3) プロファイラ・データを利用した動的最適化 LISP コンパイラ 岩井輝男, 中西正和 (慶大)

〔概要〕 実行を繰返ししながら, 最適化を行っていく LISP コンパイラの試作と実験について報告する.

- (4) 論理プログラミング機能を埋め込んだ手続き型言語 “c.” の言語仕様と実現方式

矢野稔裕, 高田正之, 小谷善行 (農工大)

〔概要〕 論理プログラム表現を許し, それを c 言語に変換して動作させる処理系を設計し, 方式を検討した.

◆ 第 47 回 オペレーティング・システム研究会

(発表件数: 5 件)

(主査: 吉澤康文, 幹事: 川島幸之助, 清水謙多郎)

日 時 平成 2 年 6 月 8 日 (金) 13:00~17:00

会 場 機械振興会館 地下 3 階 2 号室

〔東京都港区芝公園 3-5-8, 地下鉄: 日比谷線 神谷町, 浅草線 大門, 三田線 御成門下車, JR: 浜松町下車, バス: 渋谷-東京タワー線 東京タワー, 東京駅八重洲線 虎ノ門 5 丁目下車, Tel. 03 (434) 8211〕

議 題

- (1) 並列型 OS の設計と実現 中山泰一, 田胡和哉, 森下 巖 (東大)

〔概要〕 システム内部で並列処理を行う並列型 OS を通信で結合された軽量なプロセス集合体を用いて実現し評価した.

- (2) OS/omicon 第 3 版ファイルシステム

横関 隆 (ソニー), 岡野裕之 (日本 IBM)

並木美太郎, 高橋延匡 (農工大)

〔概要〕 OS/omicon 第 3 版ファイルシステム内部アーキテクチャである「ソフトウェアバス」について述べる.

- (3) 汎用入出力仮想化機能 HAF の開発

櫻庭健年, 山本伸夫, 野村雅光, 吉澤康文, 藤田不二男 (日立), 丹代美智夫 (日立 SK)

〔概要〕 汎用入出力仮想化機能 HAF を開発した. その基本機能, アクセス法への応用, 及び適用効果について論ずる.

- (4) システム記憶と複合計算機システム SCMP について

金子雅道 (富士通)

〔概要〕 システム記憶によって結合されている新しい概念の複合計算機システム SCMP の概要について述べる.

- (5) 大容量高速記憶装置 (LHS) の基本方式

西 直樹, 大野直哉, 妹尾義樹, 中崎良成 (日電)

藤原良二 (日本電気コンピュータシステム), 実宝 昭, 増本健三 (日電)

〔概要〕 半導体記憶と磁気ディスク群を単一 I/O アドレス空間に仮想化する LHS の基本方式/記憶管理技術を報告する.

◆ 第 25 回 プログラミング言語研究会

(発表件数: 5 件)

(主査: 箕 捷彦, 幹事: 上田和紀, 徳田雄洋, 戸村 哲)

日 時 平成 2 年 6 月 8 日 (金) 13:10~17:00

会 場 機械振興会館 地下 3 階 1 号室 (所在地は前記参照)

議 題

- (1) AgentCell 間通信を用いたリダクションの視覚化

布川博士, 野口正一 (東北大)

〔概要〕 関数型言語 (項書換え系) のリダクションを視覚的, 対話的に行うために AgentCell という概念を導入した.

- (2) 関数型言語 FP のベクトルプロセッサ向き自動変換法

武宮 博 (日立東北ソフトウェア)

布川博士, 白鳥則郎, 野口正一 (東北大)

〔概要〕 データ依存解析によらずベクトル演算部を認識できるよう FP を FORTRAN へ自動変換する手法を示す.

- (3) 非手続き型言語の集合と写像の性質に着目した入出力データの構造不一致検出・解決法

橋本正明, 岡本克己 (ATR)

〔概要〕 有向グラフを用いて構造不一致を検出・解決し、プログラムを生成する方法を、言語の試作結果に基づいて述べる。

(4) Increasing Safety and Modularity in C-Based Objects 小野寺民也 (日本 IBM)

〔概要〕 Cをベースにしたオブジェクト指向言語 COB の設計方針、特徴、実現方式などについて概観する。

(5) COB 1.5 における自動メモリ管理機構 久世和資, 上村 務 (日本 IBM)

〔概要〕 オブジェクト指向言語 COB における遅延参照カウント方式とコピー方式の拡張に基づいたメモリ管理の実現と評価。

◆ 第 62 回 マイクロコンピュータとワークステーション研究会 (発表件数: 6 件)

(主査: 加藤肇彦, 幹事: 金子博昭, 永治義弘, 山田 剛)

日 時 平成 2 年 6 月 22 日 (金) 13:20~17:00

会 場 機械振興会館 地下 3 階 2 号室 (所在地は前記参照)

議 題

(1) ELIS 8200 用 1 チップ LISP マイクロプロセッサ 河井 淳, 森 正実 (沖電気)

〔概要〕 ELIS 8200 の LISP 専用マイクロプロセッサについて、高速化のための方式・回路最適化について説明する。

(2) スーパスケラを用いた i960 CA のアーキテクチャ 山田 功 (インテルジャパン)

〔概要〕 i960 CA で採用したスーパスケラ技法とこの技術によるシステムへの貢献について述べる。

(3) 64 ビット RISC 型マイクロプロセッサ MN 10501 とその故障解析手法 勝連城二 (松下電器)

〔概要〕 RISC 型マイクロプロセッサとその故障解析を容易にするための回路設計および故障解析手法の一提案。

(4) トロン仕様準拠 32 ビット MPU M 32/100 をコアとする ASSP 開発

大木正司, 中尾裕一, 北上尚一, 是松次郎 (三菱電機)

〔概要〕 トロン仕様準拠した 32 ビット MPU をコアとする ASSP (特定用途向け標準品) を開発した。

(5) V 80 マイクロプロセッサ 山畑 均 (日電)

〔概要〕 V 80 の特徴であるパイプライン、オンチップキャッシュ、分岐高速化技術について報告する。

(6) ジョセフソンコンピュータ ETL-JC 1 と今後の課題

岡田義邦, 濱崎陽一, 仲川 博, 黒沢 格, 青柳昌宏, 幸坂 伸, 高田 進 (電総研)

〔概要〕 ジョセフソンコンピュータ ETL-JC 1 の構成と試作結果および高機能化・高速化のための今後の課題を述べる。

〔お詫びと訂正〕

前号本欄に掲載いたしました、第 72 回ソフトウェア工学研究会会場は機械振興会館 地下 3 階 2 号室の誤りです。お詫びして訂正いたします。

平成2年度 第32回 通常総会の開催について

平成2年度通常総会を下記によって開催いたします。ぜひご出席ください。なお、総会の案内状は、正会員各位に4月下旬別途郵送いたしました。ご欠席の場合には、必ず委任状をご返送ください。

記

日 時	平成2年5月16日(水) 13:20~14:50
会 場	機械振興会館ホール(地下2階)
総会次第	1. 会長のあいさつ 2. 平成元年度事業報告および決算報告 3. 平成2年度事業計画および予算審議 4. 名誉会員の推挙 5. 平成元年度功績賞の発表と表彰 6. 平成元年度論文賞の発表と表彰 7. 新役員の選定 8. その他

なお、総会終了後ささやかな懇親パーティ(無料)を行います(会場6階66号室)。会員が一堂に会し、直接にお話できる得難い機会ですので、皆さまのご出席をお待ちしております。

創 立 30 周 年 祝 典 の ご 案 内

情報処理学会創立30周年記念祝典(式典、講演および祝賀会)は、来る6月18日に下記により開催されます。会員各位のご参加をお願いいたします。

日 時	平成2年6月18日(月)
会 場	虎の門パストラル(農林年金会館)

記 念 式 典

(14:30~16:00) 会場: 葵の間

- 開会の辞 野口実行副委員長
- 会長式辞 三浦会長
- 記念事業経過報告 大野実行委員長
- 来賓祝辞(文部、科技、通産、郵政各省庁、他)
- 祝電紹介
- 感謝状、表彰状授与
- 開会の辞 野口実行副委員長

記 念 講 演

(16:10~17:30) 会場: 葵の間

「情報化社会への課題」山下 勇(JR 東日本会長)

記 念 祝 賀 会

(18:00~19:00) 会場: 鳳凰の間

- 開会の言葉 山下英男初代会長
- 挨拶 三浦武雄会長
- お祝いの言葉
- 乾 杯 出川雄二郎第4代会長
- 万歳三唱 清野 武第6代会長
- 閉会の言葉 河野祝典実施委員

祝賀会の一般参加費は5,000円となっております。
当日に会場受けにてお納めください。

第41回全国大会予約案内

第41回全国大会（平成2年後期）から、講演論文集の分売制を導入いたします。これにより、論文集の価格が大幅に変わりますので、ご注意ください。
つきましては、講演論文集・参加・懇親会の「予約」を募集いたしますので、ぜひお申込みくださいますようご案内申し上げます。これらの予約は事前に発送いたします。

- 期 日** 平成2年9月4日（火）～6日（木）
会 場 東北大学教養部（仙台市青葉区川内）
論 文 集 B5判オフセット印刷 ※論文集価格は消費税・送料込です
- 第1分冊 予約価4,000円（定価6,000円）
 情報科学一般
 基礎理論及び基礎技術
 ネットワーク
 応用
- 第2分冊 予約価4,000円（定価6,000円）
 人工知能及び認知科学
 人工知能システム
 パターン認識
 生体情報処理
 感性情報処理
 データ処理
 画像・図形処理
- 第3分冊 予約価4,000円（定価6,000円）
 人工知能及び認知科学
 基礎理論
 自然言語処理
 データ処理
 音声処理
 テキスト処理
 マルチメディア処理
- 第4分冊 予約価4,000円（定価6,000円）
 ソフトウェア
 基礎理論
 オペレーティングシステム
 データベース・情報検索
 プログラミング技術
 信頼性と安全性
- 第5分冊 予約価4,000円（定価6,000円）
 ソフトウェア
 プログラム言語及び仕様記述言語
 言語処理系
 ツール
 ソフトウェア工学
- 第6分冊 予約価4,000円（定価6,000円）
 ハードウェア
 システム
- セット（上記6冊1揃、講演者索引・カバー付）..... 予約価24,000円
 （定価36,000円）
- 参 加 費**（プログラム・参加章含む） **会 員**1,000円（賛助会員は正会員に準じます）、
 非会員2,000円、学生 無料
- 懇 親 会** 3,000円（会場は未定）
- 申込締切** 平成2年7月10日（火）必着
 （締切後は予約扱いいたしませんので、ご了承ください）

第41回（平成2年後期）全国大会
論文集・参加・懇親会予約申込書

■申込締切：7月10日（火）必着
（参加・懇親会予約は7月31日（火）まで可）

分冊		予約価（円）	部数	金額（円）
第1分冊		4,000		
第2分冊		4,000		
第3分冊		4,000		
第4分冊		4,000		
第5分冊		4,000		
第6分冊		4,000		
セット（6冊一揃）		24,000		
参加費 （プログラム、参加章含む）	会員	1,000		
	非会員	2,000		
懇親会		3,000		
合計				

平成2年 月 日 （論文集価格は消費税・送料込）
上記の通り予約いたします。

1. 代金は ☐現金書留, ☐銀行振込*（該当に✓印） 送金月日 月 日
*全国大会専用銀行口座「三菱銀行虎ノ門公務部情報処理学会講習会普通口座
No. 0003774」
2. 請求書 通, 納品書 通, 見積書 通, 領収書 通が必要です。
請求書宛名: 請求書品名:
〔注意〕団体名でまとめて送金される場合には、別紙に送金内訳を記入して事務局
までお送りください。
- 通信欄:

3. 担当者名 Tel. (内)

4. 申込先: ㊦ 106 東京都港区麻布台2-4-2 保科ビル3F
(社)情報処理学会 全国大会係 Tel. 03(505)0505 FAX 03(584)7925

〔送本先〕

(住所) ㊦

(氏名)

(Tel.)

〔部数〕

論 (1 2 3 4 5 6 ㊦)

プ
参
懇

第 39 回 全国大会学術奨励賞の表彰

第 39 回 全国大会学術奨励賞は、去る 3 月 14 日～16 日に早稲田大学理工学部で開催された第 40 回 全国大会の席上、会長から下記 10 君に授与されました。

本賞は昨年 10 月開催の第 39 回全国大会（於九州工業大学）の発表論文を対象に、学術奨励賞委員会（委員長 戸田副会長）において表彰規程にもとづき、総発表件数 1,169 件中推薦のあった 68 名の候補者の中から 24 名を選び、さらに慎重審議の結果、10 名が受賞候補者として推薦され、第 340 回理事会（平成 2 年 2 月）の承認をえて決定されたものです。

例外事例を含む DB からの知識自動抽出 (6C-6)

山崎 毅文 (正会員)

昭和 38 年生。昭和 61 年東京大学工学部物理工学科卒業。同年日本電信電話(株)入社。以来、同社情報通信処理研究所知識処理研究部にて、知識処理の研究に従事。特に学習、知識獲得に興味を持つ。人工知能学会会員。

意味解析における言語知識の体系的活用 (5F-8)

池田 裕治 (正会員)

1960 年生。1982 年東京農工大学工学部数理情報工学科卒業。1984 年同大学大学院工学研究科数理情報工学専攻修士課程修了。同年キャノン(株)入社。同社情報システム研究所にて、自然言語処理に関する研究開発に従事。人工知能学会、ソフトウェア科学会、日本認知科学会、ACL 各会員。

CG におけるエッジ強調画の作成 (5K-5)

斎藤 隆文 (正会員)

昭和 34 年生。昭和 57 年東京大学工学部計数工学科卒業。昭和 62 年同大学大学院工学系研究科情報工学専攻博士課程満期退学。同年日本電信電話(株)入社。現在、同社ヒューマンインタフェース研究所知能ロボット研究部に所属。形状処理、コンピュータグラフィックスの研究に従事。ACM SIGGRAPH 会員。

演繹データベースにおける再帰質問のボトムアップ処理のためのプログラム変換手法 (1N-8)

堤 富士雄 (学生会員)

昭和 39 年生。昭和 63 年九州大学工学部情報工学科卒業。現在同大学大学院修士課程工学研究科に在学中。演繹データベース、ロジックプログラミング、データベース、人工知能に興味を持つ。ソフトウェア科学会会員。

並列処理用 OS SKY-1 のスケジューリング方式 (3P-3)

上脇 正 (正会員)

昭和 37 年生。昭和 60 年東京工業大学工学部情報工学科卒業。昭和 62 年同大学修士課程修了。同年(株)日立製作所入社。現在日立研究所に勤務。マルチプロセッサの研究に従事。

データベース処理を指向した分散オペレーティング・システム XERO の設計 (6P-6)

加藤 和彦 (正会員)

昭和 37 年生。昭和 60 年筑波大学第三学群情報学類卒業。昭和 63 年同大学院博士課程工学研究科中退。東京大学理学系研究科博士課程入学。現在、東京大学理学部情報科学科助手。オペレーティング・システム、データベース管理システム、プログラミング言語などシステム・ソフトウェア全般に興味をもつ。ソフトウェア科学会、ACM, IEEE 各会員。

ユーザインタフェース構築基盤システム「鼎」におけるエディタ部品の使用実績 (2S-4)

垂水 浩幸 (正会員)

昭和 35 年生. 昭和 58 年 京都大学工学部情報工学科卒業. 昭和 60 年 同大学大学院修士課程工学研究科情報工学専攻修了. 昭和 63 年 同博士後期課程研究指導認定退学. 同年日本電気(株)入社. ソフトウェア生産技術開発本部所属. ソフトウェア工学に興味を持つ. ACM, IEEE-Cs, 日本ソフトウェア科学会各会員. 京都大学工学博士.

非決定性順序機械によるハードウェア記述言語の意味付け (2V-7)

甲村 康人 (学生会員)

昭和 40 年生. 昭和 63 年 京都大学工学部情報工学科卒業. 現在同大学大学院修士課程情報工学専攻に在学中. 矢島脩三教授のもとで論理回路の CAD/DA 技術の研究に従事. 特にハードウェア記述言語の意味論に興味を持つ.

一般化されたバリア型同期機構 (5X-9)

松本 尚 (正会員)

1962 年生. 1985 年 東京大学工学部計数工学科卒業. 1987 年 大阪市立大学大学院理学研究科物理学専攻修士課程修了. 現在, 日本アイ・ビー・エム(株)東京基礎研究所に勤務. 並列計算機アーキテクチャ, 並列化コンパイラに関する研究に従事. 電子情報通信学会会員.

「新風」プロセッサのための静的コードスケジューリング (6X-6)

入江 直彦 (正会員)

1965 年生. 1988 年 九州大学工学部電子工学科卒業. 1990 年 同大学大学院総合理工学研究科情報システム学専攻修士課程修了. 現在, (株)日立製作所に勤務. 計算機アーキテクチャ, 並列処理, 最適化コンパイラの研究に従事.

第 23 回 情報科学若手の会シンポジウム開催

日 時 1990 年 8 月 2 日(木) 13:00~4 日(土) 13:00
場 所 柳川ホテル (福岡県柳川市)
定 員 45 名 (先着順, ただし同一組織からの多数申し込みの場合は調整していただくことがあります.)
参加資格 情報科学およびその関連分野で, 研究・実務に従事している若手研究者・技術者 (シンポジウムでは, 講演発表またはパネル討論での参加を原則とします.)
参 加 費 ¥ 18,000 (食費込み, 学生 (博士課程を含む) の参加者には交通費の補助があります.)
申込方法 氏名, 所属(学年), 連絡先, 電話番号を明記して用紙を送付のこと. JUNET のメール. FAX でも可. (プログラム作成のために, 発表要旨もしくは研究・実務の経験・話題を A4 判一枚程度にまとめたものを提出してください.)
申込締切 1990 年 6 月 30 日 (土)
申 込 先 830 久留米市上津町 2228
久留米工業大学 電子情報工学科 若手の会事務局 (幹事代表 猪飼秀隆)
Tel. 0942 (22) 2345 (内 368)
JUNET ikai@kurume-it.ac.jp FAX 0942 (21) 8770

参加を内諾された先生方は以下のとおりです.

和田英一 (東大), 有澤 博 (横浜国大), 松山隆司 (岡山大), 雨宮真人 (九大)

(順不同, 敬称略)



IFIP・情報処理学会共催国際会議
教育におけるコンピュータ利用の新しい方法
<ARCE>



東京・学習院大学

7月18日－20日

情報処理学会とIFIPが共催する標記の国際会議が、下記の通り、学習院大学の記念館で開催されます。
14の国から選ばれた55編の論文を中心に、活発な討論が予定されています。また国内・国外の興味深いシステムも多数演示されますので、皆様のご参加をお勧めします。

日時 平成2年7月18日－20日
場所 学習院創立百周年記念会館（東京都豊島区目白 学習院大学内）
主催 情報処理学会、IFIP
協賛 電子情報通信学会、人工知能学会、日本教育工学会、CAI学会、CEC、IEEE Tokyo Section, Education Chapter
参加費 20,000円
資料請求先 日本交通公社コンベンションセンター（〒103 東京都中央区日本橋1-13-1）

プログラム

月日	時間	ストリーム A	ストリーム B
7月 18日 (水)	10:00	開会式	
	12:00	基調講演 Prof. James G. Greeno (Stanford University)	
	13:30	知的教授システム 1	新しい学習環境 1
	15:35	(5)	(5)
	16:00	知的教授システム 2	新しい学習環境 2
	17:40	(4)	(4)
7月 19日 (木)	9:00	知識表現	新しい学習環境 3
	10:40	(4)	(4)
	11:00	エキジビションセッション	
	12:30		
	14:00	招待講演 1	
	15:20	(2)	
	16:00	言語教育 1	学習者モデル
	17:15	(3)	(4)
	17:40		
7月 20日 (金)	9:00	言語教育 2	ITS アーキテクチャー 1
	10:15	(3)	(3)
	10:40	招待講演 2	
	12:40	(3)	
	14:00	プログラミング言語教育	ITS アーキテクチャー 2
	16:05	(5)	(5)
	16:30	閉会式	
	17:30	総括講演 Prof. Robert Lewis (University of Lancaster)	

7月18日(水)

Stream A

13:30 - 15:35 Intelligent Tutoring Systems 1

Wang Rui Yu, Liu Lian Xiang, Tan Hua (China)
An Intelligent Tutoring System for Electromagnetic Field Theory

Shigeyoshi Watanabe, Jyuichi Miyamichi, Irvin R. Katz (Japan)
Towards a Mixed-Initiative Intelligent Tutoring System :
A Knowledge-Based and Script-Based Guidance System and its
Evaluation

Dumont Bernard (France)
FRACT : A Student's Error K.B.S. for Diagnosis in Fraction Calculus

Hiroki Kondo, Kenzi Watanabe, Akira Takeuchi, Setsuko Otsuki
(Japan)
ITS : Recognizing the Context and Guiding Reduction Processes for
Fraction Calculation

Philip Duchastel (USA)
Curricular Knowledge for Intelligent Tutoring

Stream B

13:30 - 15:35 New Learning Environment 1

Helen Tang, Rosalind Banden, Chris Clifton (UK)
A New Learning Environment Based on Hypertext and ITS Techniques

Eiichi Mori, Akira Takeuchi, Setsuko Otsuki (Japan)
Thinking Tool : Improving Student's Reasoning Abilities

Claus Möbus (FRG)
The Relevance of Computational Models of Knowledge Acquisition
for Knowledge Communication with the Problem Solving Monitor
ABSINT

Gilbert Paquette (Canada)
Discovery Tools for Rule-based Knowledge Learning

*V. E. Kunitsyn, A. N. Matveev, M. A. Vorontsov, B. M. Karabski,
S. G. Veselinov* (USSR)
Technology of Teaching Physics in Computer Environment

Stream A

16:00 - 17:40 Intelligent Tutoring Systems 2

*Geoffery I. Webb, Geoff Cumming, Thomas J. Richards,
Kwok-Keung Yum* (Australia)
Educational Evaluation of Feature-Based Modelling in a Problem
Solving Domain

Masahiro Inui, Nobuji Miyasaka, Kazuhiko Kawamura (Japan),
John Bourne (USA)
Development of a Model Based Intelligent Training System for Plant
Operations

P. Aegerter, B. Auvert, V. Gilbos, F. Andrianiriana (France)
An Intelligent Tutoring System Designed for Rural Health Workers
in Developing Countries

Han Yi, Zhou Quan, Du Shumin (China)
A Traditional Chinese Medical Diagnostics Computer-Aided
Instructional System TCMD-CAIS

Stream B

16:00 - 17:40 New Learning Environment 2

F. N. Arshad (UK)
On-Line Knowledge-Based Advisors for Learning

F. M. Blondel, M. Schwob, M. Tarizzo (France)
A Problem Solving Environment for Quantitative Chemistry

Kohji Itoh, Makoto Itami (Japan)
A Computer-Assisted Knowledge Exploration Environment for
Learning by Problem Solving

Veljko A. Spasic (Yugoslavia)
Artificial Speech Supported Simulation in Computer Assisted Learning

7月19日(木)

Stream A

9:00 - 10:40 Knowledge Representation

Pierre Tchounikine (France)
Representing and Activating Knowledge in Educational Software for
a Human Instructor-Like Reasoning-Process Justification

Alfredo Fernandez-Valmayor Crespo, Carmen Fernandez Chamizo
(Spain)
An Educational Application of Memory Organization Models

*Tsukasa Hirashima, Yuichi Nakamura, Mitsuru Ikeda,
Riichiro Mizoguchi, Junichi Toyoda* (Japan)
A Cognitive Model for ITS

Jonathan Oliver, Ingrid Zukerman (Australia)
DISSOLVE : An Algebra Expert for an Intelligent Tutoring System

Stream B

9:00 - 10:40 New Learning Environment 3

V. Midoro, G. Olimpo, D. Persico, L. Sarti (Italy)
Multimedia Flexible Systems and Artificial Intelligence

*Rob S. Miller, J. Ogborn, J. Turner, J. H. Briggs,
D. R. Brough* (UK)
Towards a Tool to Support Semi-Quantitative Modelling

Anne Bergeron, Jacques Bordier (Canada)
An Intelligent Discovery Environment for Probability and Statistics

N. Takeda, K. Kawai, T. Takashima, H. Ohiwa (Japan)
TYPING : A Computer Program for Training Touch-Typing

Invited Session

14:00 - 15:20

Kurt Vanlehn (USA)
Two Pseudo-Students : Applications of Machine Learning to the
Design and On-Line Evaluation of Curriculum

Yuichiro Anzai, Irvin Katz (Japan)
Functions of Diagrams for Solving Physics Problems

Stream A
16:00 - 17:15 Natural Language Tutoring 1

Luigia Aiello, Marta Cialdea, Christopher Humphris, Alessandro Micarelli, James C. Spohrer (Italy)
Helping Students Refine Their Working Hypotheses : A First Pass in the Domain of Language Tutoring

Yasuhiro Kozuru, Etsuko Ofuka, Naoko Hanamura (Japan)
A Polite Expression Learning Aid for Students of Japanese

Ikuo Kudo, Moonkyung Chung, Hideya Koshino (Japan)
A New Foreign Language Learning Environment with Machine Translation Techniques and an Error-Correction Mechanism

Stream B
16:00 - 17:40 Student Modeling

Julita Vassileva (Bulgaria)
A Classification and Synthesis of Student Modelling Techniques in Intelligent Computer-Assisted Instruction

J. Kay (Australia)
An Explicit Approach to Acquiring Models of Student Knowledge

C. Frasson, B. de La Passardière (Canada)
A Student Model Based on Learning Context

Peter L. Glidden (USA)
Towards Developing a Model of Mathematics Learning : Modeling Knowledge Restructuring in Learning School Algebra

7月20日(金)

Stream A
9:00 - 10:15 Natural Language Tutoring 2

Yonco Yamamoto, Yoshinobu Kimura (Japan)
Knowledge Stability in ITS - English Sentence Transformation Rules -

Hideki Yamamoto, Kyoko Kai, Mariko Okato, Tsutomu Shiino, Masahiro Inui (Japan)
A Structure of an Intelligent CAI System for Training Conversation of a Foreign Language Based on Conversation Simulation

Atsushi Yamada, Toyooki Nishida, Shuji Doshita (Japan)
Qualitative Interpreter for the Sense Teaching of the Spatial Descriptions

Stream B
9:00 - 10:15 ITS Architecture 1

Guy Mineau (Canada)
Browsing Through Knowledge : Learning by Comparing Generalizations

Lambert Farand, Vimla L. Patel, Judith Leprohon, Claude Frasson (Canada)
A Case-Based Approach to Knowledge Acquisition for ITS in Medicine

Toshio Okamoto, Michihiko Seroh (Japan)
The Study and Development of an Authoring System Using a Semantic Network

Invited Session
10:40 - 12:40

Beverly Woolf (USA)
Representing, Acquiring and Reasoning about Tutoring Knowledge

Geoff Cumming (Australia)
Using Artificial Intelligence to Achieve Natural Learning

Riichiro Mizoguchi (Japan)
A Generic Framework for ITS and its Evaluation

Stream A
14:00 - 16:05 Programming Language Tutoring

Haruki Ueno (Japan)
A Knowledge Based Programming Environment with Program Comprehension for Novice Programmers

R. Moyse (UK)
Implementing Knowledge Negotiation

Janni Nielsen (Denmark)
Video as a Tool in Research on Novices Learning with Computers - on Cognition and Computers

Patrick Barril, JCabral M. Lima, Bernard Delforge (France)
Recursive Specifications and Qualitative Diagnosis

Hidegori Kaga, Katsunori Nakamura, Katsuhide Tsushima (Japan)
The Advising System for BASIC Exercise

Stream B
14:00 - 16:05 ITS Architecture 2

G. Kelleher (UK)
IEAPS, An Automatic Planner for Teaching and Help Systems

Tomio Shingae, Akira Takeuchi, Setsuko Otsuki (Japan)
Selection of Topics and Teaching Paradigm in ITS

Noel G. Clarke, Tom Richards, Geoff Cumming (Australia)
Expertutor, a General Purpose Intelligent Educational System

Mario Lavoie, Michel Gagné, André Jacques (Canada)
Specifications of a Software System Which Assists in the Design and Construction of Knowledge-Based Instructional Software

A. Hirose, Y. Harada (Japan)
The Fundamental Knowledge Tutoring Method in MODAL-TUTOR

「情報システムの計画と設計チュートリアル」開催について

情報システムの計画と設計については、その中核をなす分析・設計手法とともに、「まだまだ未知の領域が多い」「人に教えるほど成熟していない」というのが通念でありました。近年、個別の分析・設計技法の研究開発とともに、既存手法も含め、総合的なメソドロジーとして体系化・標準化・商品化する動きが見られ、この状況は大きく変化しつつあります。今回、情報システムの構築・研究に携わる方々を対象に、SIS、CASE 等の動向を踏まえつつ、現在用いられている計画・設計分野のメソドロジーとそこに用いられている分析・設計技法に関するチュートリアルを企画いたしました。この分野に関心を持つ方々、今後この分野を担ってゆく新進気鋭の方々多数の参加をお願いいたします。

日 時	平成2年7月2日(月) 10:00~17:45 (受付開始 9:40)
	3日(火) 9:40~17:45
	4日(水) 9:40~17:45
場 所	東京大学山上会館 (113 東京都文京区本郷 7-3-1 東京大学構内)
	地 下 鉄 ●丸の内線「本郷三丁目」下車 徒歩 10 分
	●千代田線「湯島」または「根津」下車 徒歩 15 分
	バ ス ●「東大赤門前」下車 徒歩 1 分
	スクールバス ●JR 御茶の水駅より「東大病院前」下車 徒歩 1 分
	●JR 上野駅より「東大病院前」下車 徒歩 1 分
参 加 費	正会員 4 万円 (但し、情報システム研究会登録者は 3 万円)
	非会員 5 万円, 学生会員 6 千円
	(チュートリアルテキストのみ 6,000 円 (送料込み))
懇 親 会	7 月 3 日(火) 18 時より 於 山上会館 (地下食堂) 参加費: 無料
	講師との個別討論や参加者どうしの親睦の場です。奮ってご参加ください。
申込締切	平成2年6月15日(金) (定員 50 名になり次第締切らせていただきます)

プログラムの概要

1. 「情報システムの計画と設計」方法論の基礎

情報システムの計画・設計業務の概要、構造化分析、データ主導型設計、ジャクソン法、オブジェクト指向など基礎的分析・設計技法の概説、CASE の現状と動向。

2. 「情報システムの計画と設計」方法論の実践

現在提供されているいくつかの方法論を題材に下記的话题を概説する。

経営戦略との融合、方法論の体系、構想の立案、問題分析、要求分析と仕様化、CASE の適用など。

プ ロ グ ラ ム

7月2日(月)	7月3日(火)	7月4日(水)
(10:00~10:10) ●開会の辞 伊吹 公夫(東京工科大) (10:10~11:10) ●情報システム構築に当たって 松谷 泰行(多摩大) (11:10~12:10) ●経営モデルと情報化戦略 浅輪 壽男(住友スリーエム)	(9:40~11:10) ●SSADM: 構造的システム分析・設計法 神沼 靖子(帝京技術科学大) (11:10~12:10) ●CASE の現状と導入方法 竹林 則彦(アーンストヤング コンサルティング)	(9:40~11:10) ●ジャクソンシステム開発法 長谷川邦夫(日本ユニシス) (11:10~12:10) ●CASE 環境に含まれる新技術 竹下 亨(日本アイ・ビー・エム)
(昼食 50分)	(昼食 50分)	(昼食 50分)
(13:00~14:00) ●経営戦略とシステムの融合: METHODE/1 岡田 俊輔(アーサーアンダーセン) (14:00~15:00) ●経営戦略と情報技術: ユニシスの考え方 手島 歩三(日本ユニシス)	(13:00~14:00) ●SIS 構築の方法論について: HIPLAN 水野 康彦(日立製作所) (14:00~15:00) ●業務部門主導型のシステム開発方 法論: PRIDE 松平 和也(PRIDE)	(13:00~14:00) ●戦略的システム構想の構築: SSCM 高橋 生宗(東芝) (14:00~15:00) ●問題分析からシステム概要設計へ: PROMOTION/DP 小林 邦生(日本電気)
(休憩 15分)	(休憩 15分)	(休憩 15分)
(15:15~17:45) ●データ主導型システム分析・設計 手法 堀内 一(日立製作所)	(15:15~16:45) ●オブジェクト指向 遠山 元道(慶應大) 前田 和昭(中部大) (16:45~17:45) ●AI, OR を適用した問題解決指 向型システム設計: SOLOMON 市川 照久(三菱電機)	(15:15~16:15) ●システム要求分析技法: C-NAP II 橋本 恵二(富士通) (16:15~17:15) ●これからのアプリケーション開発 環境: AD/CYCLE 横田 隆夫 (日本アイ・ビー・エム) (17:15~17:45) ●システム設計者の学ぶもの 浦 昭二(慶應大)
	(18:00~20:00) 懇親会 於 山上会館 地下食堂	

「情報システムの計画と設計チュートリアル」

参 加 申 込 書

平成 年 月 日

標記シンポジウムの参加を下記によって申し込みます。

○参加費（該当するものを○でかこむ）

正会員、賛助会員 40,000 円 非会員 50,000 円 学生（大学院生）6,000 円

情報システム研究会登録者 30,000 円

* 参加費には、テキスト代、懇親会費が含まれています。

○テキストのみ（6,000 円、送料込）_____冊

○送金方法

* _____円を a) 当日、会場受付にて支払います。

b) _____月 _____日送金します。

*（b を選択したかたのみご記入ください）

b-1) 現金書留（送金先 106 東京都港区麻布台 2-4-2 保科ビル

（社）情報処理学会シンポジウム係 Tel. 03 (505) 0505

b-2) 銀行振込（いずれも普通預金口座）

第一勧銀虎ノ門支店 1013945 富士銀行虎ノ門支店 993632

三菱銀行虎ノ門公務部 0000608 太陽神戸三井銀行東京 4298739
営業部

住友銀行東京公務部 10899 三和銀行東京公務部 21409

名義人 東京都港区麻布台 2-4-2 社団法人 情報処理学会

・送金先銀行名 _____銀行宛

・送金取扱銀行名 _____銀行 _____支店より

・送金人名義 _____様

* 請求書類の必要な方はお申し出ください。

請求書 通、見積書 通、納品書 通

請求先 _____

注）申込書は1枚1人としてください。（コピーで申し込むこと）

.....き り と り 線.....

（楷書でハッキリ記入してください）

〒

申込者
連絡先

氏 名

殿

Tel. _____

Fax. _____

E-mail _____

DA ワーク シ ョ ッ プ '90 開 催 案 内

設計自動化研究会主催により、DA ワークショップを下記のとおり開催いたします。本ワークショップは、昨年まで DA シンポジウムとして開催して来たもので、DA 研究のさらなる活性化を目的として、企業・大学の枠にとられずに研究者相互の交流を図ることを主眼としています。

発表に際しては予稿集を発行せず、非公開資料によるより立ち入った生の議論が出来る場を提供いたします。発表内容は、オリジナルな未発表のものを優先します。研究途上の内容でも、オリジナル度の高いものは歓迎いたします。

また、既発表のものでも新しいデータが得られるもの、より詳細な発表内容の場合は受付けますので、申込み用紙にその旨明記してください。

なお、特別講演としてカーネギーメロン大学の R. E. Bryant 準教授を予定しています。

日 時 平成2年8月30日(木) 午後～9月1日(土) 午前

場 所	南箱根 生産性研修会館
-----	-------------

参加費(宿泊費を含む) 学生 18,000 円, 正会員 (DA 会員) 20,000 円

正会員 24,000 円, 非会員 25,000 円

募集件数 20 件（発表時間 発表 20 分，質疑 10 分）

申込締切 7月2日(月)

申 込 先 211 川崎市中原区上小田中 1015

富士通研究所 人工知能研究部 川戸 信明

Tel. 044 (754) 2661 FAX 044 (754) 2588

DA ワークショップ '90 参加申し込み書

申込者 氏名 _____ 会員 No. _____ ☐ (DA 研究会会員)

所属_____

連絡先 〒

Tel. _____ FAX _____

参加方法 ☐ 聴講のみ ☐ 発表予定

題目：_____

(☐未発表 ☐既発表 _____ に発表)

発表概要（100 字以内）：発表内容の概要を明記してください。特に、既発表の場合は、新たに付け加えた点を明記してください。

[illegible]



プログラミング・シンポジウムについて

第32回 プログラミング・シンポジウム開催 (予告)

- 日時** 平成3年1月8日(火) 午後1時~10日(木) 正午まで
- 場所** 箱根ホテル小涌園
- 問合せ先** 情報処理学会 シンポジウム係 Tel. 03 (505) 0505
- 発表申込** 9月8日(土)までに、氏名、所属、連絡先(E-mail アドレスも)、発表の題と要旨をA4判用紙1~2枚に書いて事務局宛にお送りください。その採否は9月末までにお知らせいたします。発表原稿の締切は11月22日(木)です。発表は口頭発表およびポスタ発表が可能です。ポスタ発表希望の方は申込時にその旨を明記してください。
- 参加申込** 9月号に参加申込書を、また11月号にプログラムを掲載する予定です。
- 注)
- (1) 学術論文発表の場というより、多方面の人々の共通の討論の場であり、意見の交換の場であると考えています。
 - (2) 情報処理の健全な発展のために、多数の方々が参加され、とくに利用者の立場から活発に発言されることを期待します。
 - (3) 未完成であっても将来に影響を与えるような話題を歓迎します。
 - (4) ポスタセッションおよびマイコン・ビデオデモなどの場所を用意する予定です。

小特集 サイエнтиフィック・ヴィジュアルイゼーション 論文募集

論文誌編集委員会

最近、スーパー・コンピュータおよびグラフィック・ワークステーションの急速な普及と高性能化にともない、技術情報の可視化技術が重要な問題になってきております。そこで、論文誌において「小特集 サイエнтиフィック・ヴィジュアルイゼーション」を平成3年3月を目標に発行することにいたしました。このテーマに関する論文を会員から募集しますので、奮ってご寄稿ください。

1. 対象分野

流体解析、デバイス・シミュレーション、分子動力学、CT、リモートセンシングなど、各種計算結果、計測結果、構造モデルなどをグラフィック表示して、インタラクティブに結果を検討したり、プレゼンテーションに利用したりするための技法。特にヴォリューム・レンダリング、リアルタイム・アニメーション、ネットワークの高ビットレート伝送など、高度な技術と新しい応用に関する研究を歓迎します。

2. 投稿要領

最初のページに「小特集 論文サイエнтиフィック・ヴィジュアルイゼーション」と朱記してください。原稿執筆要領は通常の論文と同じです。

3. 締切日 平成2年9月29日(土) 必着

「グラフィクスと CAD」シンポジウム論文募集

グラフィクスと CAD の研究開発は、近年ますます盛んとなり、基礎、応用の両面において多くの興味深い話題を提供しています。当学会では、昭和 58 年から計 7 回標記シンポジウムを開催し、非常に多数の研究者、技術者の参加を得て、有意義な成果を得ることができました。本年度も以下の要領で標記シンポジウムを開催いたします。

グラフィクスと CAD の基礎、応用、ハードウェア、ソフトウェアの全般にわたり、これまでの成果の発表から新しい手法の提案、今後の展望、先端技術を深く追及するものに至るまで、十分な意見交換や議論の種となるような先駆的な論文の応募をお願いいたします。

特に今回は、グラフィクスのプレゼンテーションへの応用（ビジネスグラフィクス、マルチメディア、遠隔地テレビ会議など）に関した論文を歓迎します。

日時 平成 2 年 11 月 21 日(水)～22 日(水) 9:00～18:00

場所 機械振興会館大ホール

トピックス (主要なテーマは以下のとおりですが、必ずしもこれらに限りません)

- グラフィクスの基礎／表示技術、リアリズムの追求、グラフィクス入力、データ構造とデータベース、マンマシンインタラクション
- グラフィクスシステム／グラフィクス言語とソフトウェア、グラフィクスデバイスとワークステーション、標準化
- グラフィクスの応用／アニメーションとアート、ビジネスグラフィクス、文書や画像の処理、応用事例
- CAD／設計方法論、形状モデリング、図面の入力と処理、エンジニアリングデータベース、インテリジェント CAD、システム構成法

- 実施方法**
- (1) 完成された研究論文のみでなく、問題提起、新しい試み、提案などいろいろな性格の論文を歓迎する。
 - (2) 論文概要(和文 A 4 判用紙 1 枚(1,000～1,500 字)、連絡先等明記のこと)により採否を決定する。
 - (3) 採択された論文は本論文(本学会研究会用紙にて 10 枚以内)を提出していただきます。
 - (4) 採択された論文は平成 3 年度研究賞の対象となります。
 - (5) スケジュール

論文概要提出締切 7 月 10 日(火)

採択論文決定通知 8 月中旬

本論文締切 10 月 11 日(木)

申込先 情報処理学会 グラフィクスと CAD シンポジウム係

106 東京都港区麻布台 2-4-2 保科ビル Tel. 03 (505) 0505

「SE（システム・エンジニア）教育のあり方と今後の課題」

シンポジウム論文募集

近年戦略情報システム (SIS) 構想の重要性が各企業で盛んに叫ばれております。しかしながら、戦略情報システムを設計できる専門家 (SE) は充分とはいえません。しかも、その専門家 (SE) の育成を目指している大学等のカリキュラムは少なく、また研究者も乏しいのが現状であります。こうした状況を是正することは、明日の戦略情報システムの構築に向けて大きな課題といえましょう。各階層の教育実践者、研究者が一堂に会して、広く研究発表を行い、経験を交換し、検討することは、重要な意義があるものと考えます。

そこで、「情報システム研究会」と「コンピュータと教育研究会」共催で、標記のシンポジウムを開催し研究発表を行うことに決定しましたので、下記のとおり論文を募集します。

内 容 企業の情報システム部門の教育担当者及びシステム管理者、大学・高専・コンピュータ専門学校の情報関連学科の教員を対象に、たとえば以下のテーマが含まれます。

- | | |
|--|----------------------|
| ①人・組織・社会を考えた SE 教育 | ⑤SE 教育のためのメディア・教材 |
| ②SE のキャリアパスと教育体系 | ⑥学校教育と企業教育の連携 |
| ③SE 教育のカリキュラム | ⑦良い SE と悪い SE (事例研究) |
| ④SE 教育の教育技法 (討議法, ロールプレイング, ケースメソッドなど) | |

日 時 平成 2 年 11 月 30 日 (金)～12 月 1 日 (土)

場 所 機械振興会館大ホール (地下 2 階)

発表申込先 平成 2 年 9 月 20 日 (木) までに発表要旨を A 4 判用紙 1 枚にまとめて下記宛お送りください。
採否は 10 月 1 日 (月) までに通知します。採録決定者の論文提出期限は 11 月 10 日 (土) です。

(社)情報処理学会「SE（システム・エンジニア）教育のあり方と今後の課題」シンポジウム係
106 東京都港区麻布台 2-4-2 保科ビル Tel. 03 (505) 0505

なお、このシンポジウムに関する問合せは下記にお願いします。

「情報システム研究会」幹事 西原良一 日本ユニシス(株)製造流通システム本部
Tel. 03 (5562) 1950

「コンピュータと教育研究会」幹事 竹谷 誠 拓殖大学工学部 Tel. 0426 (65) 1441

学会誌送本先の住所等の変更届について (お願い)

年度の終りから始めにかけては異動期で、会員の住所や所属の変更が殺到いたします。事務処理の誤りを防ぎ能率化するため、勤務先、自宅住所に異動のある方は、必ず所定の「変更連絡届」用紙 (前号末尾に添付) にて氏名、会員番号を付し、早速にご連絡ください。なお、変更連絡届の様式を変更しましたので、旧の変更連絡届用紙は使用しないでください。また、異動の受付は毎月 20 日に締切り、翌月号から変更いたします。21 日以降受付分の変更は翌々月号からとなります。

—DASFAA '91— 論文募集

高度応用のためのデータベース・システムに関する第2回 国際シンポジウム
The Second International Symposium on Database Systems for Advanced Applications

1991年4月2日～4日 東京

主催 情報処理学会

後援(予定) Korea Information Science Society, Australian Computer Society, Canadian Information Processing Society, Singapore Computer Society

協賛(予定) IEEE Computer Society

ACM SIGMOD

DASFAA はデータベース技術の高度応用と先端データベース技術に焦点を当てた 国際シンポジウムである。第1回のシンポジウムは1989年4月に韓国ソウルで開催され、多数の国々からの200名を超える参加者を得た。第2回 DASFAA は東京新宿の工学院大学にて開催されます。研究者・開発者・利用者の幅広い方々からの論文を募集いたします。今回は特に DB 応用システムの設計・インプリメンテーション・評価や他システムとの統合化技術など実際のシステムの実現にかかわる論文も歓迎します。

トピックス (以下に限りません)

●データベースの高度応用

CIM データベース

オフィス情報システム

医療情報システム

エンジニアリングデータベース

CASE のためのデータベース

CAI データベース

科学計算用データベース

公共社会情報システム

遺伝子データベース

自然言語データベース

●データベース技術

オブジェクト指向データベースシステム

演繹データベースシステム

ハイパーメディア/ハイパーテキスト

マルチメディアデータベースシステム

視覚的インタフェース

データベースインタフェースツールキット

データベースプログラミング言語

データベース設計ツール

問い合わせ処理技術

分散データベース

データベースプロセッサ

情報資源管理

異種データベース統合技術

並列データベース処理

論文応募規定 5千語までの英文論文3部を**1990年9月15日**までに下記あてにお送りください。

812 福岡市東区箱崎 6-10-1 九州大学工学部情報工学科

牧之内顕文 Tel. 092 (641) 1101 内 6055

FAX 092 (641) 1101 内 5418

論文採否通知 採否は1990年12月4日までに通知されます。

最終論文締切は1991年1月15日です。

組織 名誉委員長 三浦武雄 (情報処理学会会長) 委員長 上林弥彦 (九大)
実行委員長 増永良文 (図書館情報大) プログラム委員長 牧之内顕文 (九大)

「共有記憶型並列処理国際シンポジウム」

論文募集

(International Symposium on Shared Memory Multiprocessing)

並列計算機の実用化は急速に進んできています。そこで、実用化に注目して、研究者、開発担当者、利用者を合同したシンポジウムを開催したいと思います。多数ご応募ください。

テーマ 共有記憶型並列処理計算機, VLIW, スーパー・スケーラー,
上記計算機に絞って

(1) 理論 (2) アーキテクチャ (3) オペレーティング・システム (4) プログラム
言語とコンパイラ (5) アプリケーション (6) 性能評価

日時 1991年4月2日(火)～4月4日(木)

場所 東京大学山上会議所

論文締切 1990年10月1日(月)

英文の論文(最大6000語)5部を論文委員長までお送りください。無記名査読をおこないますので、論文には著者名及び所属は書かず、別紙にお書きください。

主催 情報処理学会

委員長 益田隆司(東大)

論文委員長 鈴木則久(日本IBM)

102 千代田区三番町 5-19

日本アイ・ビー・エム東京基礎研究所

Tel. 03 (288) 8300 BITNET: NSUZUKI. JPNTSCVM

論文委員 Tilak Agerwala (IBM)

Forest Baskett (Silicon Graphics)

David Gifford (MIT)

Jim Goodman (University of Wisconsin)

John Hennesy (Stanford University)

Paul Hilfinger (U.C. Berkeley)

小池誠彦 (NEC)

Chuck Thacker (DEC)

富田真治 (九大)

米澤明憲 (東大)

施設委員長 多田好克(電通大)

第2回「統合ネットワーク管理」国際シンポジウム論文募集

- 目 的** IFIP と IEEE/CNOM 共催の国際シンポジウムであり、統合ネットワーク管理の実現に向けて、製品提供者、システム統合者、研究者および利用者間で情報交換・意見交換を行う。今回の副題は「統合管理による企業・分散システム環境における相互運用」である。なお、第1回は、1989年5月にボストンで開催され、非常に盛況であった。論文は、単行本にまとめられ、出版されている。
- 内 容** トータルシステム管理への要求条件、モデルとアーキテクチャ、OSI, TMN, その他の標準の適用、障害、構成、会計、性能およびセキュリティ管理、サービス品質管理、OAM&P を含む公衆網の管理、管理情報の定義と格納、管理プロトコル、異機種システムの管理、管理領域の原則と実際、管理システムのセキュリティ、セキュリティと管理との相互作用、組織間の管理問題、AI 技術、利用者インタフェースおよび管理言語、分散処理技術の管理への適用、分散オペレーティングシステムと管理との相互作用、実装およびケーススタディ。
- 論文形式** シングルスペースで A4 判 最大 12 ページ
表紙に、Paper title, Brief abstract, List of key words, Author(s)' Full name(s), Affiliation, Complete address(es), telephone numbers, および optionally Electronic mail address を記すこと。
Tutorial, Panel discussion, Birds-of-feather session の提案も受付中
製品や計画を展示する機会も用意されている。
- 日 時** 1991年4月1日～5日
- 場 所** 米国 Virginia, Crystal City (Arlington), Marriott Crystal Gateway Hotel
- 原稿締切** 1990年7月15日 (論文審査後の採録通知は11月1日)
完成した英文の論文を8部ほど次のプログラム委員長に郵送すること。
Mr. Wolfgang Zimmer
Program Co-Chair
GMD-FIRST, Hardenbergplatz 2
D-1000 Berlin 12, West Germany
- 問合せ先** NTT ネットワークシステム開発センタ通信網技術部 森野和好
100 東京都千代田区内幸町 1-2-1 日土地ビル
Tel. 03 (509) 5260 FAX 03 (597) 0462 E-mail morino@nttpro. ntt. jp

「CHDL 91」論文募集

コンピュータ・ハードウェア記述言語とその応用に関する第10回国際シンポジウム
(Tenth International Symposium on Computer Hardware Description Languages
and their Applications)

CHDL はハードウェア記述言語に基づくデジタル・システムの設計支援技術に関する情報交換・意見交換を行う国際シンポジウムで、2年に1回開催される。今回の副題は「The Synergistic Relationship Between CHDL's and The Design Environment」である。

主催 IFIP

協賛 IEEE Computer Society (Design Automation Technical Committee)

(予定) ACM (Special Interest Group on Design Automation)

Laboratoire IMAG/ARTEMIS

会期 1991年4月22日～24日

場所 Marseille, France

トピックス ・ VHDL

- ・ Frameworks
- ・ Application driven Semantics of CHDL's
- ・ Very High Level System Specification
- ・ Test Oriented CHDL's
- ・ Synthesis from a High Level Description
- ・ Formal Verification: Techniques and Applications
- ・ Automatic Finite State Machine Verification
- ・ New Concepts in Design Environments: User Interfaces, Design Representations, Tool Integration, Special Purpose Hardware

論文形式 1ページの表紙とダブルスペースで最大20ページの英文論文5部を下記のプロگرام委員長に郵送してください。

表紙には、

- ・ Title of paper
- ・ Name (s), affiliation(s), complete address(es) of author(s)
- ・ Identification of principal author, with telephone, telefax and e-mail indications

を記入してください。

論文には、Title of paper, list of authors, 上記トピックス中最も関連の深いもの、Abstract を記入してください。

Ronald Waxman

Department of EE, Thornton Hall

University of Virginia

Charlottesville, VA 22903-2442

USA

Tel: (+1) 804 (924) 6086

FAX: (+1) 804 (924) 8818

E-mail: ronw@virginia.edu

期日 1990年9月15日(論文提出) 1991年1月1日(採録通知)

問合せ先 211 川崎市中原区上小田中 1015 富士通研究所人工知能研究部
川戸信明 Tel. 044 (754) 2661 FAX 044 (754) 2664

平成 2 年度各種行事の予定について

5 月以降の主な行事予定は以下のとおりです。詳細は順次本欄にてお知らせします。なお、期日・会場が変更されることもありますので、ご注意ください。

行 事	期 日	会 場
創立 30 周年記念祝典	6・18 (月)	虎の門パストラル
創立 30 周年記念国際会議 (InfoJapan '90)	10・1 (月)～5 (金)	京王プラザホテル
第 41 回 全国大会	9・4 (火)～6 (木)	東北大学教養部
第 42 回 全国大会	平成 3 年 3・12 (火)～14 (木)	東京工科大学
平成 2 年電気・情報関連学会連合大会 (共催)	8・28 (火)～30 (木)	東京理科大学工学部

(シンポジウム)

5 th Joint Workshop on Computer Communications

	7・5 (木)～7 (土)	韓国・慶州
第 23 回 情報科学若手の会	8・2 (木)～4 (土)	柳川市・柳川ホテル
ビジョンと環境理解	8・22 (水)～23 (木)	筑波大学大学会館
マルチメディア情報と分散処理	11・16 (金)	機械振興会館
グラフィクスと CAD	11・21 (水)～22 (木)	"
コンピュータシステム	11・27 (火)	"
SE 教育のあり方と今後の課題	11・30 (金)～12・1 (土)	"
アルゴリズム	(未 定)	(未 定)
アドバンスド・データベース・システム	12・5 (水)～6 (木)	機械振興会館
第 32 回 プログラミング・シンポジウム 平成 3 年 1・8 (火)～10 (木)		箱根・ホテル小涌園

(講習会)

情報システムの計画と設計	7・2 (月)～4 (水)	東京大学山上会館
ビジュアライゼーション	9・14 (金)	機械振興会館

(共 催)

第 21 回 画像工学コンファレンス	12・11 (火)～13 (木)	ABC 会館ホール
1991 情報学シンポジウム	平成 3 年 1・17 (木)～18 (金)	日本学術会議講堂

(国際会議共催)

IFIP Workshop on Design & Test of ASICs	1990 年 6・11 (月)～12 (火)	広島グランドホテル
Int'l. Conf. on Advanced Reseach on Computers in Education	7・18 (水)～20 (金)	機械振興会館
1990 Int'l. Symposium on Symbolic and Algebraic Computation	8・20 (月)～24 (金)	日大理工学部

日本工学会 第9回「未来工学に関するパネル討論会」

——知的コミュニケーション——

標記パネル討論会を当学会および電子情報通信学会，日本オペレーションズ・リサーチ学会，人工知能学会が幹事学会となって開催いたします。多数の方々の参加をお願いいたします。

日 時 平成2年7月3日（火）9：30～17：00

場 所 建築会館ホール（東京都港区芝 5-26-20 Tel. 03 (456) 2051）
JR 山手線・京浜東北線田町駅，都営地下鉄三田駅下車徒歩5分

参加費 会員 10,000 円（学生 3,000 円），会員外 15,000 円

定 員 150 名

申込方法 任意の用紙（はがきの場合は郵便振替または銀行送金のこと）に氏名・勤務先・職名・連絡先を明記（所属学会名ならびに会員番号を必ず付記すること）のうえ，6月25日（月）までに参加費を添えて（現金書留が望ましい）下記あて申込みください。後日，参加証をお送りします。なお，定員超過の場合は勝手ながら当方で抽選します。

申 込 先 （社）日本工学会 107 東京都港区赤坂 9-6-41 Tel. 03 (475) 4621

郵便振替口座：東京 3-5055

三菱銀行本店公務部普通預金：0002150

太陽神戸三井銀行新橋支店普通預金：0920776 大和銀行六本木支店普通預金：6102486

プログラム

- 知的コミュニケーション（9：30～10：00）（司会）野口 正一（東北大）
- 知的イメージインタフェース（10：00～10：50）鳥脇純一郎（名 大）
- 知的情報通信（10：50～11：40）原島 博（東 大）
- 一 昼 食（11：40～12：50）—
- 知的交換サービス（12：50～13：40）坂井 陽一（NTT）
- 知的ヒューマンインタフェース（13：40～14：30）藤沢 浩道（日 立）
- 知的コミュニケーションにおける Fuzzy Neuron Computation（14：30～15：20）向殿 政男（明 大）
- 一 休 憩（15：20～15：30）—
- パネル討論（15：30～17：00）全講師



情報処理学会研究報告，全国大会講演論文集，シンポジウム論文集 および学会単独主催の国際会議 Proceedings に掲載された論文等 の著作権の取扱いについて

標記学会出版物に掲載された論文等の著作権の取扱いについては、これまで明文化されたものではありませんでしたが、慣行として学会誌、論文誌、欧文誌等の機関誌に掲載された論文等の取扱いを準用しております。

しかしながら、国内外での科学技術情報の交流の拡大に伴い、標記論文等についても転載の許諾を求める要請が増加するとともに、無断複写（コピー）等の著作権の侵害もまた増加することが考えられますので、標記論文等についても著者に不利益が生じることのないよう十分な配慮を払うと共に、著作権の侵害に対し学会が対応できるようにするため、具体的な措置として機関誌原稿執筆案内（学会誌 4 月号巻末参照）の著作権に関する規程を準用して下記の規程を設けることといたしました。

つきましては、平成 2 年 8 月以降投稿された標記論文等の著作権は原則として情報処理学会に帰属するものといたします。また、これまでに掲載された論文および投稿中で今後掲載された論文につきましても、必要な場合には本制度の趣旨にかんがみ規程を準用させていただくよう会員各位のご了承をお願いいたします。

なお、特別の理由でこの措置を希望されない著者の方は、甚だお手数ですが、平成 2 年 7 月末日までに、本会にその旨書面でお申出くださるようお願い申し上げます。

記

情報処理学会研究報告，全国大会講演論文集，シンポジウム論文集 および学会単独主催の国際会議 Proceedings に掲載された論文等 の著作権の取扱い

1 著作権の帰属

- (1) 標記学会出版物に掲載された論文等（以下論文等という）の著作権は原則として本学会に帰属する。
- (2) 特別な事情により前項の原則が適用できない場合は著者と本学会との間で協議の上措置する。なお特別な事情としては次のような例を想定する。
 - 依頼論文等であって、その内容が著者個人でなく著者の所属する法人等に係るもので、著作権の本会への移転帰属に関し当該法人等の了解が得られない場合。
 - 特別講演記事などで著者の了解が得られない場合。

2 著作権の本学会への移転帰属による運用効果 および運用上の措置等

- (1) 論文等の著作権は本学会に帰属するが、著者人格権は著者に帰属する。ただし、著者が著者自身の論文等を複製・翻訳等の形で利用することに対し、本学会はこれに異議申立て、もしくは妨げることをしない。この場合著者は本学会に申し出を行い、また利用された複製物あるいは著作物中に出典

を明記すること。

- (2) 本学会は論文等の複製をおこなうことができる。但しこの場合関係する著者にその旨了解を得る。
- (3) 第三者から論文等の複製あるいは翻訳等の許諾要請があった場合、本学会は理事会において審議し、適当と認めたものについて要望に応ずることができる。但しこの場合関係する著者にその旨了解を得る。
- (4) 前項の措置によって、第三者から本学会に対価の支払があった場合には関係する著者に報告の上、本学会会計に繰り入れ学会活動に有効に活用する。

3 著作権侵害等に関する注意事項

- (1) 執筆に当っては他人の著作権の侵害、名誉毀損、その他の問題を生じないよう十分に配慮すること。
- (2) 著者は公表された著作物を引用することができる。引用した場合はその出典を明示すること。
- (3) 万一、執筆内容が第三者の著作権を侵害するなどの指摘がなされ、第三者に損害を与えた場合著者がその責を負う。

海外からの送金方法について

海外からの会費、論文誌購読費、各種行事参加費、各種図書購入費等については、円またはドルの銀行小切手により送金されているが、次のような問題があります。

1. 銀行小切手作成の手間がかかる。
2. ドル送金の場合は為替相場の変動により、常に過不足を生じ、経理上支障がある。
3. 円またはドルに拘らず、1,500～2,500 円の換金手数料をとられる。

この点を改善するため、海外からは「VISA」および「Master card」により円立で送金できるようになりましたのでお知らせします。なお、申込書様式は次のとおりとしますが、A 4 判用紙を用い必ず郵送してください (Fax は不可)。

If you wish to pay with your credit card, please fill in the following form and mail it back to the Information Processing Society of Japan.

To: INFORMATION PROCESSING SOCIETY OF JAPAN

Hoshina Bldg., 2-4-2 Azabudai, Minato-ku

Tokyo 106, Japan

Phone: 81-3-505-0505 Fax: 81-3-584-7925

I wish to pay with my credit card. ☐

Circle one: Master Card VISA

- (1) Card number _____
- (2) Expiry date _____
- (3) Full name of holder as it appears on the card _____
- (4) Amount _____ Japanese Yen
- (5) Details (annual fees, journal, etc.) _____
- _____
- _____
- (6) Mailing address _____

(Country)

Phone _____

Fax _____

Date _____

Signature _____

Note: The fees can also be paid by cash or by bank draft. In the case of bank draft, please add the handling charge ¥ 1,500 to the total amount. We cannot accept personal check

Remit to: Information Processing Society of Japan

Bank account no. 046-1013945

Toranomon Branch, The DAI-ICHI-KANGYO BANK, LTD.

支 部 だ よ り

支部総会について

各支部の通常総会が下記のとおり開催されますので、ぜひご出席ください。なお、各支部総会の案内状は、支部内の正会員各位に別途郵送されますが、ご欠席の場合には必ず委任状をご返送ください。

支 部	日 時	会 場	講 演 会
東 北	5月15日(火) 15:00~16:00	東北大学電気通信研究所大会議室	16:00~ 人文科学とデータベース 八重樫純樹 (国立歴史民俗博)
中 部	5月18日(金) 14:30~	王山会館(名古屋市千種区覚王山通り 8-18)	15:30~ コンピュータユーザとして30年 本告光男(愛知工大)
関 西	5月15日(火) 13:30~14:00	(株)島津 マルチホール (大阪市北区芝田 1-1-4)	14:00~16:10 光コンピュータ 一岡芳樹(阪大) 関西が今おもしろい 加藤晃晃(阪大)
中 国	5月11日(金) 14:30~15:00	NTT袋町ビル2階会議室 (広島市中区袋町 6-11)	15:00~ NEC スーパータワーとインテリ ジェントビルについて 小野山勝洋(日電)
九 州	5月11日(金) 13:30~14:30	九州大学大型計算機センター 多目的講習室(3階)	14:30~16:00 知能ロボット事始め 長田 正(九大)

東北支部 第16回 東北大学応用情報学研究センターシンポジウム

——音声認識の現状と将来——

日 時 平成2年5月29日(火)~30日(水)

会 場 東北大学大型計算機センター4階講義室(仙台市青葉区片平 2-1-1)

参加費 無 料(参加資格は問いません)。ただし、参加希望者は事前登録のこと。

問合せ先 東北大学応用情報学研究センター 牧野 正三
Tel. 022 (227) 6200 (内 2538)

第17回 東北大学応用情報学研究センターシンポジウム

——最近のデジタル信号処理の応用——

日 時 平成2年6月8日(金)~9日(土)

会 場 東北大学大型計算機センター4階講義室

参加費 無 料(参加資格は問いません)。ただし、参加希望者は事前登録のこと。

問合せ先 東北大学大型計算機センター 安倍 正人 Tel. 022 (221) 3380

支部大会講演募集——平成2年度電気関係学会東北支部連合大会——

- 期 日** 平成2年8月30日(木), 31日(金)
30日(木) 午前: 一般講演・技術報告
午後: 一般講演・技術報告, 見学会, 特別講演 夜: 懇親会
31日(金) 一般講演・技術報告
30, 31日の両日 展示会(計測機器, 電子通信機器, 電力機器他)
- 会 場** 東北学院大学泉キャンパス(仙台市泉区市名坂天神沢 9-1, 地下鉄八乙女駅8番乗場より宮城交通バス泉キャンパス行または松森循環行, 泉キャンパス下車)
- 講演内容** 一般講演 各専門分野で最近行った研究の発表
技術報告 各専門分野で最近行った工事報告, 現場実験報告, 新製品の紹介等, 特に現場に直結した実験研究の発表
講演者は, 主催学会会員に限る. 連名の場合は会員外を含むことも差支えない. 講演時間は, 1件15分以内(討論時間を含む)とする.
- 申込方法** (1) 「講演申込書」は申出により「原稿用紙1,600字」「原稿の書き方」と共に渡す. 郵送希望の場合は1部175円(2部以上の場合は1部増すごとに75円増)の郵送料を添えること.
(2) 一般講演及び技術報告の予稿集はオフセット印刷とするので, 必ず所定の原稿用紙を使用すること.
(3) 申込件数の制限は1名2件までとする. ただし連名は差支えない. 内容が著しく不適当と思われる場合講演を制限する場合がある.
(4) 発表者は講演申込と同時に必ず講演申込金として1件につき3,000円を添えて申込むこと.
(論文集代, 別刷50部代を含む)
(5) OHPを講演各室に準備する.(希望によりスライドも可)
- 申込・原稿締切日** 7月6日(金) 必着厳守(申込書と原稿を同時締切とする)
- 論文集** 発表者には, 大会当日受付にて配布する. 購入希望者は, 所要部数を早めに申込むこと(1部2,500円, 郵送希望の場合は, 郵送料1部510円)
- 申込・問合せ先** 980 仙台市青葉区荒巻字青葉 東北大学工学部電気情報系学科内
電気関係学会東北支部連合事務局 Tel. 022 (222) 1800 (内 4321) 庄司
- 懇親会** 8月30日(木) 18:00~ 場所 仙台国際ホテル 会費3,000円
申込は当日大会会場で受付けます.
- 宿 泊** とくに斡旋しない.

関西支部 第1回 ソフトウェア研究会——画像処理——

- 日 時** 平成2年7月9日(月) 13:20~16:50
- 会 場** (財)関西情報センター会議室(大阪市北区梅田 1-3-1-800 大阪駅前第1ビル8階)
- 定 員** 50名
- 参加費** 600円
- 問合せ先** 情報処理学会関西支部 Tel. 06 (346) 2543
- プログラム**

- | | |
|------------------------|-----------|
| (1) 画像処理総論 | 美濃 導彦(京大) |
| (2) 画像理解技術の動向 | 浅田 稔(阪大) |
| (3) デジタル光演算による画像処理(仮題) | 谷田 純(阪大) |
| (4) PACS: 医用画像管理システム | 湊 小太郎(京大) |

九州支部 第2回 若手の会シンポジウム

九州地区の若手の研究者・技術者の親睦をかねて、下記の要領でシンポジウムを開催いたします。なお、参加者は、特に九州地区に限るわけではありません。また、若手についても特に定義があるわけではありません。計算機、情報処理技術について将来の展望や夢を語り合いたい方は大いに歓迎いたします。ふるってご参加ください。

日 時 平成2年8月23日(木)～25日(土)
 会 場 湯布院町営 国民宿舎 由布山荘 (大分県大分郡湯布院町大字川上 2927-1
 Tel. 0977 (84) 2105～6)
 参 加 費 未定 (参加人数による。支部より多少補助あり)
 申込締切 7月31日(火)
 申 込 先 812 福岡市東区箱崎 6-1-1 九州大学工学部中央計数施設内
 情報処理学会九州支部事務局 Tel. 092 (641) 1101 (内 5985, 5984)

本 会 協 賛 等 の 行 事 案 内*

セミナー「ニューラル／ファジィの新しい展開を探る」

平成2年6月28日(木)～29日(金)

大阪・なにわ会館

平成2年7月4日(水)～5日(木)

東京・ダイヤモンドホール社

講習会第2回「ファジィ理論の基礎」

平成2年6月28日(木)～29日(金)

東京大学山上会館

機械翻訳利用に関するシンポジウム

平成2年7月13日(金)

東京・機械振興会館

システム制御情報チュートリアル講座イーブニングスクール(F)コース「ロボット工学基礎論」

平成2年7月17日(火), 20日(金), 27日(金), 31日(火), 8月3日(金)

大阪マーチャンダイズマートビル

1990年情報理論とその応用ワークショップ(WITA '90)

1990年暗号と情報セキュリティワークショップ(WCIS '90)

平成2年8月29日(水)～31日(金)

広島・ガーデンパレス

第7回色彩工学コンファレンス

平成2年10月30日(火)～31日(水)

東京・コクヨホール

NICOGRAPH '90

平成2年11月5日(月)～9日(金)

東京・サンシャインシティ, 他

* 詳細は本号会議案内欄参照